情報と人間

1 情報とは:

精神機能により識別される刺激である。この刺激を発端として人間は発想をし、連想 し、思考し、行動をする。識別される刺激は年齢、職業、興味、経験等により個人差 がある。

種類:感覚的情報、指示的情報、総合判断を要する情報

情報化社会の定義

「情報内容を的確にとらえ利用するものが社会的に優位を占め、そうでないものが他に おくれをとるしくみの社会」(三省堂新明解国語辞典)

農耕時代:自然のコントロールが始まる。 工業化時代:エネルギーのコントロールをする。 情報化時代:情報のコントロールが重要となる。

3 情報革命

第一:言葉の出現 第二:文字の出現

第三:印刷術の出現(大量のコミュニケーションが可能となる) 第四:コンピュータの出現(量とスピードと距離の限界の拡大)

情報化社会の明暗

情報化社会のプラス面 独占された情報が共有化→市民社会、民主的社会の基礎

情報化社会のマイナス面

情報公害、情報犯罪の増加

情報公害

情報の氾濫:画一化、センセーショナリズム、情報ニヒリズム、デカダンス

たいた。 たいでは、では、パーツクでは、では、では、できない。 では、では、パーツクでは、できないでは、できない。 では、できないでは、できないできない。 では、できないでは、できないできない。 できないでは、できないできない。

情報の生産者と消費者の分離

情報犯罪 6

> 著作権の侵害、不正コピー、盗作 コンピュータ犯罪:ウイルス、不正アクセス、情報リーク

7 対策

情報を使いこなす技術:

本来の教育、判断能力の育成、情報活用能力の育成

法律面の整備:

著作権法(知的所有権の確立)

情報公開法(知る権利の保証)

個人情報保護法案(保護か、言論表現の自由の制限か?)

加藤秀俊『情報行動』(1972)『取材学』(1975)中公新書。

川崎良孝編『大学生と「情報活用」:情報探索入門』京都大学図書館情報学研究会 1999。 慶應義塾大学日吉メディアセンター編『情報リテラシー入門』慶應義塾大学出版会 2002 野口悠紀雄『超勉強法:実践編』講談社 1997。

速水栄『マンガ情報収集入門』サンマーク出版 1997。

松本侑子『作家になるパソコン術』筑摩書房 1998

---『赤毛のアンに隠されたシェークスピアー』集英社 2001。

毛利和弘『文献探索法の基礎 2002- レポート・論文作成・調査必携- 図書、雑誌、新聞、電子情報編』アジア書房 2002 ビデオ『図書館の達人』全6巻 紀伊国屋 1993。 ビデオ『新・図書館の達人』全3巻 紀伊国屋 1998。